

令和元年度日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立櫛形小学校 教諭 大隅 奈々恵

- 1 派遣期日 令和元年11月1日（金）
- 2 研修先 学校名 埼玉大学教育学部附属小学校
所在地 〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤6-9-44
<http://www.fusho.saitama-u.ac.jp/>
- 3 研修内容

（1）視察校における研究への取組

研究主題：「わかる」「できる」をつなぐ思考力、判断力、表現力を高め、運動への自信をもてる指導の工夫

埼玉大学教育学部附属小学校では、全国学校体育研究大会の大会主題を受け、「運動への自信」に焦点を当て研究をしてきた。「運動への自信」とは単にその運動の技能が高いから得意というだけでなく今後も継続的に運動に取り組もうとする意欲も含まれており、小学校学習指導要領における育成すべき資質・能力の「学びに向かう力、人間力等」につながるものである。運動への自信をもてる児童育成の基本構想は以下の通りである。

【基本構想】

「わかる（知識）」と「できる（技能）」をつなぐ思考力、判断力、表現力等の高まった児童とは、「習得した知識と現在の技能を活用して、効果的な振り返りをし、具体的な活動の決定をしている児童」のことであり、「課題解決サイクルを意識して行っている姿」としている。「わかる」「できる」とは、「その特性に応じた各種の運動の行い方を理解すること」と定義している。関わり合いを土台として、ステップを上ることで目標が達成され運動への自信を得ることができる。

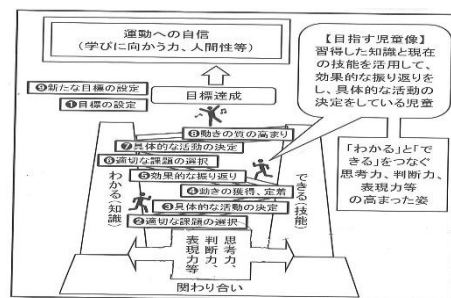
目標達成のために、どうすれば課題解決できるかを考えることが思考力、判断力、表現力を高めることにつながる。しかし運動は一過性で消えてしまうため、課題を把握しづらい難点がある。そのための手立てとして以下2点を挙げている。

【研究の手立て】

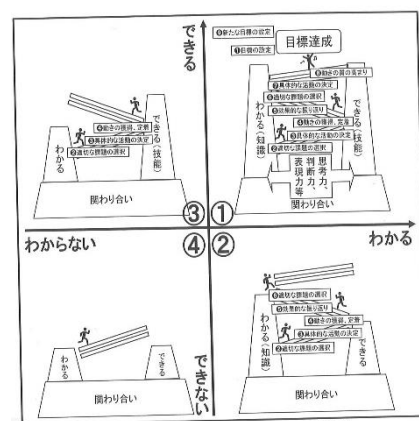
- ① 思考を可視化し、現状を把握する学習カードの工夫
学習カードを使用することで「教師が児童の考えを的確に見取ること」「児童が思考を整理すること」ができる。また、A評価（十分に満足できる内容）B評価（おおむね満足できる内容）を教師が考えておき、児童の思考の見取りを的確にできるようにする。さらに、学習カードに記述された言葉などを使い、課題の提示を行うことで、児童の思考を整理したり、友達のよい考えを取り入れたりすることができるようにする。

② 関わり合う必要感が生まれる教材の工夫

グループやペアで自分の動きについての課題を共有させたり、運動回数が多くなるような教材、児童が何回も繰り返し挑戦したくなるような場の工夫を行ったりすることで、関わり合いに必要感をもった課題解決サイクルが生まれるようにする。また、アドバイスカード等を用いて試技を見るためのポイントを提示することも関わり合いに必要な手立てであると考え。



〈研究のイメージ〉



〈「わかる」「できる」の関係〉

(2) 視察校における授業の実際

第5学年 「陸上運動」(走り幅跳び)

授業の始めに、音楽に合わせて準備運動を行い、その後、リズムカルな助走が身につくようにするための「ライントレーニング」や、安定した両足着地が身につくようにするための「フワッと着地」力強い踏切が身につくようにするための「振り上げジャンプ」の3つの感覚運動を行い、十分に体をほぐした。音楽に合わせた準備運動は、学年の始めから取り組んでいるようで、児童がリラックスしながら取り組んでいる姿が見られた。その後グループでの準備をスムーズに行ったあと、本時の課題設定へと進んだ。そこでは前時の学習カードの言葉や、その場で児童から出た言葉を使って、「遠くへ跳ぶために、友達のできばえを見て、アドバイスしよう」と課題が設定された。児童が自分たちの課題をよく理解し、本時の活動に生かされている様子が伝わってきた。グループごとに分かれた練習の時間では、マットを3枚連続して置き、その上にエバーマットが置かれた、児童が挑戦したくなるような場の設定(写真1)のもと練習が始まった。測定が簡単でアイデアにあふれた教材であった。試技を始める前に自分の課題をチームの仲間に伝え、共有できるようにしていた。さらに一人一つ名前が書かれた磁石を掲示物(写真2)に貼り、課題と目標が明確に分かるようにされていた。できばえチェック表(写真3)をもとに、一人の試技に対し、①踏み切り②空中姿勢③着地④記録係と役割分担がされており、アドバイスし合う様子を多く見ることができた。できばえチェック表と、友達の試技を見比べながらアドバイスをを行う姿から、表が児童にとって活用しやすいものであることが伝わってきた。振り返りの時間では、授業の内容と関わることについての発問と、それに対する児童の考えを記述する欄がある学習カード(写真4)を使って、振り返りを記入し、授業が終了した。



<場の設定> (写真1)



<掲示物> (写真2)



<できばえチェック表> (写真3)

4 感想

通常、グラウンドで行うことの多い走り幅跳びを、どのように体育館で行うのか始まる前から興味があった授業だったが、至るところに工夫の見られる場の設定や掲示物があり、体育館で行う走り幅跳びの授業の良さを感じることができた。また、場をいくつも設定することができ、運動量の確保という面においても有効だと感じた。また、測定が簡単で、なおかつエバーマットに体を投げ出すことのできる場の工夫は、運動が苦手な児童でも安心して行えるものと感じた。児童が何度でも挑戦したくなるような場の工夫や、児童同士が関わり合えるような教材教具の工夫が、児童の意欲の向上、課題達成の手立てとなっているということを目の前で感じ取ることができた。

また、授業を参観して「集団行動」がいかに目標達成のために大切かということを感じた。一つ一つの行動に児童の前向きさが見られ、体育の授業以前の基本的なこととして、学級経営という基盤をととても大切にしてきたのを感じた。仲間の課題達成のために、一生懸命アドバイスをする姿、仲間のアドバイスに耳を傾け自分の技能に取り込もうとする姿から、学級のお互いを認め合う雰囲気を感じた。さらに、教師側からの温かい声かけも、「運動への自信」につながるものであると感じた。今回の研修は、参考になるものばかりで、素晴らしい実践を目にすることができた。今後の自分の授業にも生かしていきたいと感じた。

第5学年 走り幅跳び 学習カード

氏名	本時のねらい	本時の振り返り	進出	振り返り	記録係	記録係の役割
(氏名)	助走の長さ(120cm)	助走の長さ(120cm)	助走の長さ(120cm)	助走の長さ(120cm)	助走の長さ(120cm)	助走の長さ(120cm)
(氏名)	助走の長さ(120cm)	助走の長さ(120cm)	助走の長さ(120cm)	助走の長さ(120cm)	助走の長さ(120cm)	助走の長さ(120cm)
(氏名)	助走の長さ(120cm)	助走の長さ(120cm)	助走の長さ(120cm)	助走の長さ(120cm)	助走の長さ(120cm)	助走の長さ(120cm)
(氏名)	助走の長さ(120cm)	助走の長さ(120cm)	助走の長さ(120cm)	助走の長さ(120cm)	助走の長さ(120cm)	助走の長さ(120cm)
(氏名)	助走の長さ(120cm)	助走の長さ(120cm)	助走の長さ(120cm)	助走の長さ(120cm)	助走の長さ(120cm)	助走の長さ(120cm)

<学習カード> (写真4)